

中国人の日本語授受文の学習過程における 母語（中国語）の影響について

馮 富 榮¹⁾

問題と目的

80年代に入ってから、第2言語の自然な習得過程を探ろうとして、中間言語に関する研究が多くなってきた。しかしそのような研究には以下の問題点が指摘されている。a) 扱っている学習項目（たとえば英語の形態素の学習順序など）が簡単であること。b) 自然環境での学習者のみを対象にして検討するものが多いこと。c) 第2言語の教師などのような実質的な上級学習者を対象にする研究が少ないこと。d) 学習者の母語に精通する研究者が少ないことである。以上の理由により、中間言語における母語の影響についての検討が十分でないことが指摘された。

母語の影響という視点から、自然環境での日本語学習と教室環境での日本語学習を同時に検討した研究として、稲葉（1992）と馮（1993, 1994）のものが挙げられる。稲葉（1992）は、日本とアメリカという2つの環境での英語話者の日本語学習者を対象にして、日本語条件文の学習を調べた。その結果、日本語と英語との条件文の成立領域に差異のない項目は学習が容易であるが、差異のある項目は学習が困難であることが分かった。すなわち、英語話者の日本語学習者は、日・英条件文の領域の重なる部分では英語による正の転移を、重ならない部分では負の転移を起こすという。

一方、馮（1993, 1994）は、中国と日本という2つの環境における学習年数の異なっている3つのグループの中国人の日本語学習者を対象にし、日本語受動文と使役文の学習における母語の影響を調べた。いずれの結果からも、両言語の共通部分の学習は比較的容易であるが、相違部分の学習はたいへん困難であること、共通部分より相違部分の学習にエラーが多く生じ、しかも相違部分の学習エラーは学習年数が経ってもそれほど減少しないことが明らかとなった。ゆえに、母語の影響が確かめられただけでなく、その影響が長い間にわたって存在し、

長期的に日本語構文文法の学習を干渉し続けることが明らかにされた。

日本語授受文は、受動文・使役文と同様に、日本語文法の3大部分の1つであると同時に、外国人の日本語学習の困難点でもある。まさに奥津（1984a）が指摘しているように、“日本語における授受動詞の体系の複雑さは、世界の諸言語の中でも最たるものであろうし、…それだけに外国人の日本語学習者にとっては、はなはだ迷惑な学習上の難点のひとつである”。日本語の教育現場においても、日本語授受文の学習は外国人にとってたいへん困難であることが一般的な常識として知られている。そのため、日本語授受文に関する研究が多く出されている。たとえば、授受文の構文文法について説明をしている研究だけでも、奥津（1984a, 1984b, 1986）、宮地（1965）、相原（1986）、岡野（1972）のものなどが挙げられる。また授受動詞の説明に重点を置くものとして、曾（1986）の“授受動詞用法図解”、徐（1983）の“表示授受関係的動詞和補助動詞”などが挙げられる。さらには授受表現の学習エラーを分析した堀口（1983）のもの、授受動詞と敬語との関係を論じた上野（1978）のものなどもある。このように、日本語授受文に関する研究が多く世に出されている。

しかし、それと対照的に、日本語授受文と他の言語との比較研究は、わずかである。そのうち数えられるものとして、韓国語授受文との比較に関しては、奥津（1979）と林（1980）の研究、中国語授受文との比較に関しては、奥津（1984a）の研究がある。奥津（1984a）によると、中国語でも日本語でも、与え手と受け手との間のものの移動を表わす表現は授受文である。しかし、給与動詞は日本語では“やる”、“あげる”、“差し上げる”、“くれる”と“下さる”の5つがあるのに対し、中国語では“給”という1つの動詞しかない。これと逆に、日本語では“もらう”、“いただく”という2つの取得動詞しかないのに対し、中国語では“接受”、“要”、“得到”など取得を表わす動詞が多い。さらには、日本語の授受動詞は、身内索性（人間関係を表わす“内外”

1) 名古屋大学大学院博士課程（後期課程）

を基準にして、言葉を使い分けることを意味する)を持っているが、中国語の授受動詞は身内素性を持っていないという。

中国人が日本語授受文を学習するとき、日本語受動文と使役文の学習と同様に、母語から影響を受けるならば、3つのことが考えられる。1つ目は授受マーカーである“に”と“から”の学習は、母語から影響を受けにくいだけでなく、その使い方が比較的明瞭であるので、この学習エラーは学習年数が経つにつれて減少していくことであり、2つ目は、授受文の構文文法の学習は、母語の構文文法から影響を受けやすいので、この学習エラーは母語の構文文法と一致する可能性が高い。ゆえに、気付きにくく、学習の年数が経ってもそれほど減少しないことである。3つ目は、“上下”よりも、“内外”による授受動詞の尊敬語と謙譲語との使い分けの方が中国人の日本語学習の問題点になる可能性が大きいことである。というのは、中国語の授受動詞は身内素性を持っていない(奥津 1984b)からである。

本研究では、1つ目と2つ目の問題に焦点を絞り、検討を進めていきたい。第3点に関しては、日本語敬語表現の学習に関する今後の研究課題として検討してみたい。上述したように、授受文は、受動文、使役文と共に日本語3大文法であると同時に、外国人の日本語学習の3大難関の1つでもある。日本語授受文の学習過程における母語の影響について研究を行うことにより、受動文、使役文の検討と関連性のある結果、または整合性のある結果が得られれば、日本語構文文法の学習における母語の影響に対して、より明確な理解を得ることが期待できるだけでなく、それに関する一般的な理論構築にも貢献できるのではないかと思う。ここに本研究の目的と意義がある。そのため、調査Iを行った。

調査 I

1. 目的

調査Iの目的は、1)日本語授受文の授受マーカーと授受構文の構文文法の学習のどちらが中国人の日本語学習者にとって、より困難であるか、それはなぜであるか、2)両言語授受文の相違点が中国人の日本語授受文の学習エラーと関連があるか、あるとすればどう関連するか、3)中国人の学習エラーには如何なるものがあるか、容易に減少しないエラーはあるか、あるとすれば、その原因はどこにあるか、4)中国での中国人学習者と日本での中国人学習者との間で、共通した学習の問題点があるか、あるとすれば、その原因はどこにあるか、の4点を検討することにある。

2. 仮説

仮説1：授受マーカーである“に”と“から”の学習エラーは学習の年数と共に減少していくが、授受文の構文文法の学習エラーは学習の年数が経っても容易に減少しない。

仮説2：日本語授受文の自然さを評定するとき、中国人と日本人の評定平均値に両言語の共通項目においては正相関、相違項目においては逆相関か無相関がある。

仮説3：両言語授受文の共通項目よりは、相違項目の学習で中国人がエラーを多く出す。

3. 方法

対象 I

日本人群：日本人、317名。そのうち、愛知県にあるI女子短期大学の大学生は101名(平均年齢19歳9カ月)、愛知県にあるA男子高校の学生は121名(平均年齢17歳)、同じ愛知県在住の社会人は95名(男性35名、女性60名で、平均年齢41歳9カ月)である。

日本語専攻群：中国にあるT国立大学の日本語学部の3年生と4年生、50名(男性10名、女性40名で、平均年齢21歳7カ月)。全員日本での滞在経験は無く、日本語学習歴は平均4年11カ月である。

1年学習者群：日本在住の留学生、53名(男性32名、女性21名で、平均年齢30歳)。日本での滞在期間は平均1年であり、日本語学習歴は平均1年4カ月である。日本に来てから日本語の授受表現を学習した人は30名である。

3年学習者群：日本在住の留学生、31名(男性19名、女性12名で、平均年齢31歳6カ月)。日本での滞在期間は平均2年4カ月であり、日本語学習歴は平均3年1カ月である。日本に来てから日本語の授受表現を学習した人は15名である。

6年学習者群：日本在住の留学生、30名(男性25名、女性5名で、平均年齢33歳4カ月)。日本での滞在期間は平均5年5カ月であり、日本語学習歴は平均6年4カ月である。日本に来てから日本語の授受表現を学習した人は9名である。

長期学習者群：日本在住の留学生、26名(男性17名、女性9名で、平均年齢32歳6カ月)。中国の大学で日本語を専攻した後、平均6年日本語の教師か日本語の通訳に従事した経験を持っている。日本での滞在期間は平均3年9カ月であり、日本語学習歴は平均13年5カ月である。

質問紙 I の構成

質問紙Iは、AとBから構成される。

Aは、授受マーカー選択課題であり、Bは日本語自

TABLE 1 授受マーカー選択課題における各グループの選択率 (%)

| NO | 項目内容 | JG | | G1 | | G2 | | G3 | | G4 | | G5 ^{a)} | |
|---------|---------------------|--------|-------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|------------------|--------|
| | | に | から | に | から | に | から | に | から | に | から | に | から |
| 1) | 弟_本をやった。 | 100.00 | .63 | 100.00 | | 98.11 | 1.89 | 93.55 | 6.45 | 100.00 | | 100.00 | |
| 2) | おばさん_鉛筆をもらった。 | 47.95 | 95.90 | 24.00 | 100.00 | 28.30 | 96.23 | 23.33 | 96.67 | 13.33 | 96.67 | 30.77 | 100.00 |
| 3) | 兄は私_本をくれた。 | 98.74 | 1.89 | 100.00 | | 96.23 | 3.77 | 90.32 | 9.68 | 93.33 | 6.67 | 96.15 | 3.85 |
| 4) | これは兄_あげるもの。 | 97.79 | 11.67 | 90.00 | 10.00 | 66.04 | 33.96 | 93.55 | 9.68 | 96.67 | 3.33 | 100.00 | 3.85 |
| 5) | 私は先生_本を頂いた。 | 48.73 | 92.09 | 24.00 | 98.00 | 41.51 | 86.79 | 25.81 | 100.00 | 23.33 | 100.00 | 26.92 | 100.00 |
| 6) | 犬_餌をやった。 | 100.00 | .63 | 100.00 | | 98.11 | 1.89 | 100.00 | | 100.00 | | 100.00 | |
| 7) | 田中君_本をもらった。 | 64.35 | 87.70 | 20.00 | 98.00 | 37.74 | 88.68 | 25.81 | 100.00 | 26.67 | 100.00 | 30.77 | 100.00 |
| 8) | 先生が私_本をくださった。 | 99.05 | 1.58 | 98.00 | 2.00 | 92.45 | 11.32 | 93.55 | 6.45 | 100.00 | | 96.15 | 3.85 |
| 9) | 私が先生_花を差し上げた。 | 100.00 | | 98.00 | 2.00 | 100.00 | 3.77 | 100.00 | | 100.00 | | 100.00 | |
| 10) | 社長_お年玉を頂いた。 | 50.32 | 95.25 | 10.00 | 100.00 | 30.19 | 92.45 | 19.36 | 100.00 | 16.67 | 100.00 | 23.08 | 100.00 |
| 11) | 私は友達_服をあげた。 | 99.68 | .63 | 100.00 | | 96.23 | 7.55 | 100.00 | | 100.00 | | 100.00 | |
| 12) | 社長が私_テレホンカードをくださった。 | 99.68 | .63 | 100.00 | | 84.91 | 15.09 | 96.77 | 3.23 | 100.00 | | 100.00 | |
| 13) | 上司_贈物を差し上げた。 | 99.05 | 2.21 | 93.90 | 6.10 | 96.23 | 3.77 | 100.00 | 3.23 | 96.67 | 3.33 | 100.00 | |
| 14) | 田中君がぼく_本をくれた。 | 100.00 | .32 | 100.00 | | 92.45 | 9.43 | 100.00 | | 100.00 | | 100.00 | |
| 15) | 花_水をやった。 | 100.00 | 1.26 | 100.00 | | 94.34 | 5.66 | 100.00 | | 100.00 | | 100.00 | |
| 16) | これは弟_もらった本です。 | 64.04 | 90.54 | 24.00 | 96.00 | 35.85 | 90.57 | 38.71 | 96.77 | 23.33 | 100.00 | 30.77 | 100.00 |
| 17) | おばさん_旅行のお土産を頂いた。 | 59.94 | 90.22 | 30.00 | 90.00 | 39.62 | 90.57 | 22.58 | 100.00 | 23.33 | 100.00 | 30.77 | 100.00 |
| 18) | 先生_ネクタイを差しあげた。 | 98.73 | 2.54 | 98.00 | 2.00 | 92.45 | 7.55 | 100.00 | | 100.00 | | 96.15 | 3.85 |
| 19) | 先生が私_ケーキを下された。 | 100.00 | .95 | 100.00 | | 94.34 | 7.55 | 96.77 | 3.23 | 100.00 | | 100.00 | |
| 20) | お姉さん_服をあげた。 | 99.68 | 1.91 | 98.00 | 2.00 | 92.45 | 9.43 | 100.00 | | 100.00 | | 100.00 | |
| 21) | お姉さん、私_くれるのか? | 99.68 | 2.22 | 100.00 | | 92.45 | 9.43 | 93.55 | 6.45 | 100.00 | 3.33 | 100.00 | |
| 無回答数(率) | | | | 1(2.00) | | | | | | | | 1(3.85) | |

a) GJ: 日本人群, G1: 日本語専攻群, G2: 1年学習者群, G3: 3年学習者群, G4: 6年学習者群, G5: 長期学習者群

然さ評定課題である。前者は質問項目に適切だと思われる授受マーカーを“に”と“から”から選択するものであり、21項目からなっている。両方とも適切だと判断すれば両方を選択するように指示した。後者は自然、比較的、あまり自然でない、不自然の4段階評定法を用いて、文の自然さを評定するものであり、25項目から構成される。項目JC1からjc11までは中国語の構文文法と共通するものであり、残りの14項目は相違するものである。前者は共通項目、後者は相違項目とする。また項目JC1からJC6までは両言語とも自然な項目であるので、以下両言語自然とする。項目jc7からjc11までは両言語とも不自然な項目であるので、以下両言語不自然とする。さらに項目Jc12からJc19までは日本語としては自然であるが、中国語としては不自然な項目であるので、以下日本語自然とする。最後の項目Cj20からCj25までは日本語自然の逆であるので、以下中国語自然とする。質問紙の項目順序はランダムに並べられた。

日本人を対象にした調査は、社会人だけは個別に行われたが、あとはすべて集団で実施された。中国人を対象とした調査は、日本語専攻群だけは集団で実施された以外、全員個別に行われた。いずれも回答時間の制限を設けなかった。

4. 結果と考察

授受マーカー選択課題の結果をTABLE 1, 日本語自然さ評定課題の結果をTABLE 2に示した。

仮説1を検討するために、授受マーカー選択課題と日本語自然さ評定課題におけるエラー率を計算した。エラーの計算方法であるが、前者は日本人群の選択率が10%以下であるものを中国人が選択したならば、エラーとした^{a)}。後者は中国人の評定値と日本人群の評定平均値

a) 日本人群の選択率が10%以下であるものは、読みとり違いによるものであると考えられる。

中国人の日本語授受文の学習過程における母語（中国語）の影響について

TABLE 2 日本語自然さ評定課題における各グループの評定平均値（標準偏差）^{a)}

| NO | 項目内容 | GJ | G1 | G2 | G3 | G4 | G5 ^{b)} |
|-------|-----------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------------|
| JC1) | ひどい病気にかかってしまった。 | 1.04(.21) | 1.04(.20) | 1.62(.80) | 1.39(.80) | 1.13(.43) | 1.08(.39) |
| JC2) | 部長、ここにサインをして頂きたいのですが。 | 1.19(.51) | 1.50(.79) | 1.67(.96) | 1.65(.92) | 1.50(.78) | 1.39(.70) |
| JC3) | 兄は弟に本を一冊やった。 | 1.11(.38) | 1.16(.47) | 1.34(.68) | 1.23(.62) | 1.20(.49) | 1.31(.47) |
| JC4) | 本は私に沢山の知識をくれた。 | 1.85(1.09) | 1.72(.83) | 2.42(1.17) | 2.13(1.02) | 1.53(.78) | 2.04(.96) |
| JC5) | 先生に本を一冊差し上げたいのですが。 | 1.18(.51) | 1.20(.57) | 1.37(.74) | 1.32(.79) | 1.10(.31) | 1.19(.49) |
| JC6) | 教育部から通知が来た（届いた）。 | 1.05(.24) | 1.54(.84) | 1.53(.95) | 1.45(.77) | 1.10(.31) | 1.12(.33) |
| jc7) | 兄は弟に本を一冊やられた。 | 3.96(.19) | 3.74(.49) | 3.64(.82) | 3.71(.59) | 3.87(.43) | 3.81(.40) |
| jc8) | 本は私に沢山の知識をあげた。 | 3.93(.32) | 3.40(.95) | 3.21(1.04) | 3.61(.80) | 3.83(.46) | 3.81(.40) |
| jc9) | 弟に本を一冊差し上げたいのですが。 | 3.57(.76) | 3.92(.27) | 3.67(.73) | 3.94(.25) | 3.83(.38) | 3.81(.49) |
| jc10) | 友達が家内から本を一冊あげた。 | 3.82(.56) | 3.80(.57) | 3.59(.84) | 3.71(.78) | 3.87(.43) | 3.85(.37) |
| jc11) | お父さんは、貴方に何を差し上げたか？ | 3.05(1.13) | 3.44(1.01) | 3.13(1.13) | 3.52(1.03) | 3.43(1.14) | 3.60(.87) |
| Jc12) | ひどい病気をもらってしまった。 | 1.92(.99) | 3.70(.58) | 3.38(.88) | 3.84(.52) | 3.48(.95) | 3.19(1.27) |
| Jc13) | 部長、ここにサインを頂きたいのですが。 | 1.31(.57) | 2.22(1.00) | 2.43(1.29) | 2.52(1.15) | 2.43(1.19) | 2.27(1.02) |
| Jc14) | 先生が田中君に本を一冊下さった。 | 2.38(1.22) | 2.70(1.22) | 2.98(1.14) | 2.97(1.20) | 2.53(1.33) | 2.27(1.34) |
| Jc15) | これは誰が貴方にくれたのですか。 | 1.57(.92) | 2.72(1.26) | 2.96(1.22) | 2.71(1.27) | 2.87(1.17) | 2.96(1.08) |
| Jc16) | おばさんが妹に服を下された。 | 1.35(.69) | 2.66(1.27) | 2.98(1.15) | 2.52(1.39) | 2.70(1.21) | 2.42(1.17) |
| Jc17) | お父さんは、貴方に何を下さいましたか？ | 1.82(1.06) | 2.64(1.17) | 3.04(1.18) | 2.61(1.31) | 2.80(1.13) | 2.42(1.14) |
| Jc18) | 教育部から通知をもらった。 | 1.23(.58) | 1.84(1.00) | 1.74(.86) | 2.00(1.13) | 2.20(1.03) | 1.92(1.16) |
| Jc19) | 家内が父にシャツをやった。 | 2.32(1.17) | 3.68(.79) | 3.21(1.08) | 3.71(.69) | 3.77(.63) | 3.62(.70) |
| Cj20) | 先生が田中君に本を一冊やった。 | 1.94(1.03) | 1.92(1.14) | 1.98(1.08) | 1.90(1.11) | 1.77(1.04) | 1.96(1.15) |
| Cj21) | これは誰が貴方にあげたのですか。 | 2.57(1.25) | 1.74(.94) | 1.71(.98) | 2.19(1.20) | 1.93(1.11) | 1.77(1.11) |
| Cj22) | おばさんが妹に服をやった。 | 2.55(1.12) | 1.92(1.07) | 1.83(1.00) | 1.81(1.17) | 1.77(.97) | 2.39(1.13) |
| Cj23) | 友達が家内から本を一冊もらった。 | 2.19(1.25) | 1.38(.70) | 1.70(.97) | 1.81(1.11) | 1.53(.86) | 2.00(1.02) |
| Cj24) | お父さんは、貴方に何をあげたか？ | 2.16(1.19) | 2.20(1.09) | 1.83(.94) | 1.87(1.18) | 1.90(1.16) | 2.23(1.11) |
| Cj25) | 家内が父にシャツを差し上げた。 | 3.06(1.04) | 1.96(1.05) | 2.02(1.05) | 1.74(1.09) | 1.50(.73) | 2.15(.97) |

a) 4点尺度（1：自然，2：比較的自然，3：あまり自然でない，4：不自然）

b) GJ：日本人群，G1：日本語専攻群，G2：1年学習者群，G3：3年学習者群，G4：6年学習者群，G5：長期学習者群

との差が1.45を超えるとエラーとした^{b)}。このようにして計算した結果、授受マーカー選択課題におけるエラー率は、日本語専攻群は0.67%，1年学習者群は4.67%，3年学習者群は1.85%，6年学習者群は0.63%，長期学習者群は0.54%であり、いずれも低かった。これと対照的に、日本語自然さ評定課題におけるエラー率は、日本語専攻群は26.40%，1年学習者群は32.52%，3年学習者群は31.48%，6年学習者群は26.13%，長期学習者群は21.23%であり、いずれも比較的高かった。

しかし、中国人の日本語学習者は、日本語自然さ評定課題のこういった項目で少なく、こういった項目で多くエラーを出すのであろうか。それを見るために、日本語自然さ評定課題の各項目における日本語学習者の各グループのエラー率をTABLE 3に示した。

TABLE 3から分かるように、相違項目のCj23とCj24にエラーが出なかったのは予想外である^{c)}。これは、中国語自然であるこの2項目における日本人群の評定平均値が予想より低かったため、中国人が最小値をつけてもエラーにはならないからである。したがってこの2項目を削除することにし、残った項目から得られた各グループのエラー率は、それぞれ28.70%，35.36%，34.22%，28.41%，23.08%となっている。授受マーカー選択課題のエラー率と比べると、たいへん高いことが分

b) 差が1.5を越えると、日本人群と反対の傾向となるためである。

c) 項目Cj24における1年学習者群の1.89というエラー率は無回答によるものである。

TABLE 3 日本語自然さ評定課題の各項目における各グループのエラー率(%)

| NO | G 1 (50名) | G 2 (53名) | G 3 (31名) | G 4 (30名) | G 5 (26名) ^{a)} |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------------------|
| JC 1) | | 11.32 | 12.90 | 3.33 | 3.85 |
| JC 2) | 14.00 | 18.87 | 22.58 | 16.67 | 11.54 |
| JC 3) | 4.00 | 7.55 | 3.23 | 3.33 | |
| JC 4) | 2.00 | 24.53 | 12.90 | 3.33 | 7.69 |
| JC 5) | 4.00 | 7.55 | 6.45 | | 3.85 |
| JC 6) | 14.00 | 13.21 | 16.13 | | |
| jc 7) | 2.00 | 11.32 | 6.45 | 3.33 | |
| jc 8) | | 9.43 | | | 3.85 |
| jc 9) | 4.00 | 11.32 | 6.45 | 3.33 | |
| jc10) | 12.00 | 15.94 | 12.90 | 16.67 | 11.54 |
| jc11) | 5.10 | 11.84 | 9.10 | 4.55 | 3.85 |
| Jc12) | 76.00 | 60.38 | 90.32 | 70.00 | 65.38 |
| Jc13) | 34.00 | 43.40 | 51.61 | 46.67 | 42.31 |
| Jc14) | 38.00 | 45.28 | 48.39 | 36.67 | 30.77 |
| Jc15) | 40.00 | 49.06 | 41.94 | 40.00 | 42.31 |
| Jc16) | 54.00 | 67.92 | 48.39 | 56.67 | 42.31 |
| Jc17) | 34.00 | 52.83 | 38.71 | 33.33 | 23.08 |
| Jc18) | 26.00 | 5.66 | 9.68 | 13.33 | 15.38 |
| Jc19) | 82.00 | 56.60 | 80.65 | 83.33 | 69.23 |
| Cj20) | 12.00 | 22.64 | 12.90 | 3.33 | |
| Cj21) | 56.00 | 56.60 | 41.94 | 53.33 | 61.54 |
| Cj22) | 50.00 | 49.06 | 61.29 | 53.33 | 26.92 |
| Cj23) | | | | | |
| Cj24) | | 1.89 | | | |
| Cj25) | 46.00 | 41.51 | 61.29 | 63.33 | 26.92 |

a) G1: 日本語専攻群, G2: 1年学習者群, G3: 3年学習者群, G4: 6年学習者群,
G5: 長期学習者群

かった。ゆえに、授受マーカー学習と比べ、授受文の構文文法学習が中国人にとってより困難であることが示唆され、受動文と使役文の学習に関する馮(1993, 1994)の研究結果がここにおいても支持された。

ところで、中国人が日本語授受文を学習するときも、受動文及び使役文の学習と同様に、授受マーカーの学習エラーは学習年数と共に減少していくが、構文文法の学習エラーは学習年数が経っても減少しないのであろうか。それを検討するために、分散分析を用いてグループ間のエラー率の差を検定した。その結果、授受マーカー選択課題においては、有意差が見られた($F(4,196) = 6.13, p < .001$)。Tukey法を用いてグループ間の差検定を行ったところ、学習年数の少ない1年学習者群は、日本語専攻群・6年学習者群及び長期学習者群との間で、

それぞれ有意差を出した。よって、授受マーカー学習は学習年数と共に進み、学習年数の経つほどエラーは有意に減少していくことが検証された。これは仮説1を支持する結果であった。しかし日本語自然さ評定課題においても有意差が見られた($F(4,196) = 3.52, p < .01$)ことから、仮説1は完全に支持されたとは言いがたい。この結果により、日本語の学習年数が増加するにつれて、日本語の構文文法の学習においても、何らかの変化があることが示唆された。

ところで、この変化は授受文の構文文法学習のどこに生じたものであろう。それをより検討するために、両言語の共通項目と相違項目のそれぞれにおけるグループ間の差検定を行った。その結果、相違項目においてはグループ間の差が見られなかった($F(4,196) = 1.45$)の

TABLE 4 共通項目・相違項目における6つのグループ間の相関

| | 共通項目 | | | | | 相違項目 | | | | |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|-------|---------|---------|---------|------------------|
| | G1 | G2 | G3 | G4 | G5 | G1 | G2 | G3 | G4 | G5 ^{a)} |
| GJ | .974*** | .973*** | .981*** | .988*** | .989*** | -.140 | -.258 | -.172 | -.347 | -.064 |
| G1 | | .977*** | .992*** | .989*** | .985*** | | .914*** | .941*** | .943*** | .905*** |
| G2 | | | .989*** | .970*** | .980*** | | | .887*** | .896*** | .789*** |
| G3 | | | | .989*** | .994*** | | | | .952*** | .832*** |
| G4 | | | | | .992*** | | | | | .865*** |
| G5 | | | | | | | | | | |

a) G1: 日本語専攻群, G2: 1年学習者群, G3: 3年学習者群, G4: 6年学習者群, G5: 長期学習者群
 (*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

TABLE 5 日本語自然さ評定課題における各グループのエラー率 (%)

| 内 容 | G1 (50名) | G2 (53名) | G3 (31名) | G4 (30名) | G5 ^{a)} (26名) |
|--------|----------|----------|----------|----------|------------------------|
| 共通項目 | 5.10 | 11.84 | 9.10 | 4.55 | 3.85 |
| 両言語自然 | 6.33 | 13.84 | 12.37 | 4.44 | 4.49 |
| 両言語不自然 | 3.60 | 9.43 | 5.16 | 4.67 | 3.08 |
| 相違項目 | 37.33 | 41.35 | 42.20 | 39.17 | 31.41 |
| 日本語自然 | 48.00 | 47.64 | 51.21 | 47.50 | 41.35 |
| 中国語自然 | 27.33 | 28.62 | 29.57 | 28.89 | 19.23 |

a) G1: 日本語専攻群, G2: 1年学習者群, G3: 3年学習者群, G4: 6年学習者群, G5: 長期学習者群

に対し、共通項目においてはグループ間の差が見られた ($F(4,196) = 6.88, p < .001$)。そして共通項目に対して Tukey 法による多重比較を行った結果、1年学習者群は、それぞれ日本語専攻群、6年学習者群、長期学習者群と有意差を出した。以上の結果より、共通項目の学習は学習年数の経つと共に進むが、相違項目の学習は学習年数が経っても簡単に進まないことが示唆され、相違項目の学習における母語の干渉が容易に消去しないことが裏付けられた。ゆえに仮説1が基本的に支持された。

仮説2を検討するために、共通項目と相違項目における日本人群と日本語学習者の5つのグループとの評定平均値の相関係数を求め、それをTABLE4に示した。

TABLE4から分かるように、共通項目においては、日本語学習者のいずれのグループにも日本人群と有意な正相関が得られた ($p < .001$) のと対照的に、相違項目においては、いずれも日本人群と有意な相関が得られなかった。これは、日本語受動文と使役文の学習に関する馮 (1993, 1994) の研究と整合する結果であり、共通項目の日本語学習には中国語による促進的影響、相違項目の学習には干渉的影響を再び確認したものであった。よって、中国人による日本語の構文文法の学習には、母語の

影響が一般的に存在すると結論できるのではないかとと思われる。

この研究では、日本語学習者の5つのグループを対象にして、調査を行った。この5つのグループは、学習環境、学習年数、職業などにおいてそれぞれ異なっているが、中国語を母語として使用しているところに共通の要因を持っている。もしこの共通した母語（中国語）が彼らの日本語学習に大きく関与しているならば、そしてもし彼らが共通に中国語の知識を日本語の学習方略に取り入れているならば、共通項目と相違項目を問わず、この5つのグループの評定値間に高い正相関があると予想できる。実際TABLE4から分かるように、この5つのグループ間に、共通項目と相違項目の両方からも高い正相関が得られた。

この結果により、学習者の学習環境、学習経験、学習年数、また職業体験などと関係なく、学習者の持っている母語知識が一貫してつよく第2言語の学習に影響しつづけることが裏付けられた。とくに長期学習者群は、13年間日本語を学習し、さらに約6年間日本語の教師か日本語の通訳をしてきた。しかしそれにもかかわらず彼らからも、中国語による強い影響、とりわけ相違項目の学

習において母語による強い干渉が観察された。すなわち、日本語の構文文法の学習において、母語の影響が存在するだけでなく、その影響がたいへん根強いこと、母語の影響が原因でエラーは容易に減少しないことが、日本語受動文・使役文の学習に関する研究と同様に、日本語授受文の学習に関するこの研究においても検証された。

仮説3を検討するために、共通項目と相違項目及び両言語自然、両言語不自然、日本語自然、中国語自然のそれぞれにおける日本語学習者の各グループのエラー率を求め、それをTABLE5に示した。

TABLE5から明らかなように、共通項目よりも相違項目におけるエラー率のほうが高いだけでなく、いずれのグループにとっても、中国語自然よりも日本語自然の学習のほうが困難なのである。これは、仮説3を支持するものであり、受動文と使役文の学習研究(馮, 1993, 1994)と一致する結果である。つまり日本語では自然であっても母語では不自然だと、それを容易に受け入れない傾向が中国人の日本語授受文の学習に関するこの研究においても再び確認された。

ここから示唆されるのは、中国人が日本語の構文文法を学習するとき、中国語の構文文法を学習方略として使用することだと考えられる。すなわち、中国人が日本語を学習するとき、学習材料だけを頼りにして学習を進めているのではなく、学習材料を手がかりに、記憶内の関連情報を活性化させながら、学習を進めているのである。さらに言えば、学習材料それ自体ではなく、記憶内の関連情報、すなわち母語知識が第2言語の学習において決定的な役割を果たしている可能性が高い。ゆえに長期学習者群は、平均13年間日本語学習の言語材料をインプットしていたにもかかわらず、学習材料に反する、また母語知識と一致するアウトプットをしたのだと思われる。

このことがより明確に裏付けられるのは、1年学習者群の結果である。彼らの大多数は日本に来てから日本語授受文を学習した。ゆえに彼らは日本で日本人の教師から正しい日本語授受文を学習している。しかしながら、彼らも他のグループと同じように、相違項目において日本人と異なった傾向になった。この結果について、言語材料だけを頼りにする言語学習処理説では解釈できない。その代わりに学習者が内的な関連枠組を使って、第2言語の学習材料を知覚し、処理すると説明しなければならない。この処理過程においては、受容、回避、変容などの機制が働いていると考えられる。つまり、内的な関連枠組と矛盾がなく、整合性のある言語材料は簡単に受容できるが、内的な関連枠組と矛盾するような言語材料を受容することは、内的なアンバランスを生じさせる可能

性が大きい。それを避けるために内的な関連枠組と矛盾のある言語材料を回避したり、ときには変容したりするのではないだろうか。

ゆえに、第2言語では自然であるが、母語では不自然である学習材料は、学習者の所有する母語知識体系と矛盾するので、学習者から不自然だと拒否されたり、変容されたりしがちである。したがって、母語の1つの表現に第2言語の2つの表現が同時に含まれており、とくにその2つの表現の片方が母語と一致し、片方が一致しない場合、一致しないほうの学習は非常に困難であると予想できる。実際この予想は、使役文の研究結果(馮, 1994)からも、この研究の結果からも裏付けられる。TABLE3から分かるように、項目Jcl2のエラー率は中国人の各グループとも高かった。というのは、“病気をもらう”という中国語と一致しない表現以外に、これとほぼ類似した意を表わす“病気にかかる”という中国語と一致する表現もあるため、学習者はより理解しやすい後者だけを受け入れ、前者は受け入れずに済んでしまったからであろう。

ともかく、学習年数、学習経験、教わった教師、また学習環境などを異にする中国人の5つのグループとも、共通項目より相違項目において高いエラー率を出したことから、日本語授受文の相違項目の学習も大変困難であること、両言語授受文の相違点がすなわち中国人の日本語授受文の学習の問題点であること、学習を困難にする要因が母語の干渉にあること、しかもこの干渉は学習年数が経っても容易に減少しないことが示された。

以上、調査Iの結果に基づいて3つの仮説について検討し、その結果、3つの仮説ともほぼ支持されたことが分かった。しかし上で考察しているように、両言語授受文の相違項目において、日本語学習者が日本人群の評定平均値と無相関を出したことも、エラーを多く出したことも、ほんとうに母語の干渉的影響に起因するものなのであろうか。それを検討するために調査IIを行うことにした。

調査 II

1. 目的

調査IIの目的は、1)日本語自然さ評定課題の項目は、両言語の共通項目と相違項目から構成されているか否か、2)中国人の日本語学習者の評定値が日本人群のそれに近いか、それとも対応する中国語への中国人群のそれに近いか、3)日本語学習者の5つのグループは、日本語の自然さを評定するとき、確かに母語(中国語)から影響を受けているか、の3つを検討することにある。

2. 仮説

仮説4：両言語授受文の共通項目においては、日本人群の日本語への評定平均値と対応する中国語への中国人群の評定平均値とが類似し、相違項目においては異なる。

仮説5：中国人の日本語学習者は、日本語授受文の自然さを評定するとき、日本語授受文の構文文法よりはみずからの中国語授受文の構文文法に従う傾向がある。したがって、日本語学習者の評定平均値は日本人群のそれよりも、むしろ対応する中国語への中国人群のそれに近い。

3. 方法

対象Ⅱ

中国人群：中国人、278名。そのうち、中国にあるI中学校の中学生は91名（男性30名、女性61名で、平均年齢15歳9カ月、年齢無記入は1名）である。中国にあるN大学の学生は101名（男性50名、女性41名で、平均年齢19歳9カ月、年齢と性別無記入はそれぞれ9名と10名）である。同じ中国在住の社会人は86名（男性38名、女性45名で、平均年齢41歳6カ月、年齢と性別無記入はそれぞれ6名と3名）である。

質問紙Ⅱの構成

質問紙Ⅰの日本語自然さ評定課題と対応する中国語の自然さを評定するものである。項目数、評定方法及び実施方法は、質問紙Ⅰと同様である。中学生と大学生を対象にした調査は集団で実施され、社会人を対象にした調査は個別に行われた。

4. 結果と考察

調査Ⅱの結果をTABLE 6に示した。

仮説4を検討するために、TABLE 6の結果を質問紙Ⅰの日本語自然さ評定課題の結果と比較した。まず共通項目と相違項目のそれぞれにおける日本人群の評定平均値と中国人群の評定平均値との差得点を求めた。その結果、共通項目のうち項目jc9だけは差得点が1.36と高かったのに対して、後の10項目の差得点が0.41と低かったため、この10項目は共通項目と見てよいであろう。ところで、なぜjc9の差得点が高かったのであろうか。“弟に本を一冊差し上げたいのですが”というjc9は両言語不自然の項目として設けられた。しかし、中国人群の評定平均値が2.21と予想より自然のほうに傾いたので、日本人群との差が開いたのである。しかし中国人群の評定平均値は比較的低いものの、やはり不自然のほうに偏っており、しかも日本人群との差が1.45を超えていないことから、この項目も両言語不自然という共通項目として考えてよいであろう。

TABLE 6 中国人群による中国語自然さの評定平均値（標準偏差）^{a)}

| NO | 項目内容 | M (SD) |
|-----|------------------|------------|
| 1) | 得了重病。 | 1.15(.88) |
| 2) | 部長先生，想請您在这儿签一下字。 | 1.43(.70) |
| 3) | 哥哥給了弟弟一本書。 | 1.09(.32) |
| 4) | 書給了我很多知識。 | 1.33(.62) |
| 5) | 想贈送（給）老師一本書。 | 1.87(.95) |
| 6) | 從教育部來通知了。 | 1.66(.93) |
| 7) | 哥哥被弟弟給了一本書。 | 3.77(.58) |
| 8) | 書給了我你很多知識。 | 3.37(.87) |
| 9) | 想贈送（給）弟弟一本書。 | 2.21(1.05) |
| 10) | 朋友從妻子那兒給了一本書。 | 3.78(.55) |
| 11) | 你父親贈給你什麼了？ | 2.34(1.01) |
| 12) | 獲得了重病。 | 3.90(.33) |
| 13) | 部長先生，在這兒想得到您的簽字。 | 3.14(.76) |
| 14) | 山田先生給了我田中一本書。 | 3.40(.78) |
| 15) | 這是誰給我你的？ | 3.73(.55) |
| 16) | 阿姨給了我我妹妹一件衣服。 | 3.47(.90) |
| 17) | 你父親贈給我你什麼了。 | 3.79(.51) |
| 18) | 從教育部得到通知了。 | 2.11(.92) |
| 19) | 妻子賜予父親一件襯衣。 | 3.82(.49) |
| 20) | 山田先生給了田中一本書。 | 1.16(.46) |
| 21) | 這是誰給你的？ | 1.10(.45) |
| 22) | 阿姨給了我妹妹一件衣服。 | 1.23(.54) |
| 23) | 朋友從妻子那兒得到了一本書。 | 1.98(.98) |
| 24) | 你父親給你什麼了？ | 1.19(.49) |
| 25) | 妻子孝敬了父親一件襯衣。 | 2.01(1.04) |

a) 4点尺度（1：自然，2：比較自然，3：不太自然，4：不自然）

一方、相違項目に関しては、中国人群と日本人群との評定平均値の差得点を求めたところ、項目Cj23だけがとくに低かったものの、他の13項目はすべて比較的高かった。13項目のうち、差得点が1を超える項目は10であり、しかも差得点の平均値も1.45を上回って1.47に達したことから、この13項目は相違項目と見なしてよいと思われる。したがって、仮説4が差得点の結果からほぼ支持された。

仮説4をさらに検討するために、共通項目と相違項目における中国人群と日本人群の評定平均値の相関係数をそれぞれ求めた。その結果、共通項目では0.89（ $p < .001$ ）と有意な高い正相関が得られたのに対し、相違項目では-0.40と無相関が得られた。この結果からも、仮

TABLE 7 4つのカテゴリーにおける各グループの評定平均値(標準偏差)^{a)}

| | GJ (317名) | G1 (50名) | G2 (53名) | G3 (31名) | G4 (30名) | G5 (26名) | GC ^{b)} (278名) |
|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------------------|
| 両言語自然 | 1.24 (.26) | 1.36 (.28) | 1.66 (.38) | 1.53 (.42) | 1.26 (.31) | 1.35 (.31) | 1.48 (.38) |
| 中国語自然 | 2.41 (.60) | 1.85 (.56) | 1.84 (.51) | 1.89 (.62) | 1.73 (.51) | 2.08 (.63) | 1.45 (.36) |
| 日本語自然 | 1.74 (.44) | 2.77 (.51) | 2.84 (.57) | 2.86 (.56) | 2.85 (.56) | 2.63 (.60) | 3.42 (.30) |
| 両言語不自然 | 3.67 (.41) | 3.66 (.38) | 3.44 (.58) | 3.40 (.37) | 3.77 (.33) | 3.77 (.30) | 3.10 (.47) |

a) 4点尺度(1:自然, 2:比較的自然, 3:あまり自然でない, 4:不自然)
 b) GJ: 日本人群, G1: 日本語専攻群, G2: 1年学習者群, G3: 3年学習者群, G4: 6年学習者群, G5: 長期学習者群, GC: 中国人群

TABLE 8 4つのカテゴリーにおける各グループ間の評定値の検定結果^{a)}

| | F | GJG1 | GJG2 | GJG3 | GJG4 | GJG5 | GJGC | G1G2 | G1G3 | G1G4 | G1G5 | G1GC | G2G3 | G2G4 | G2G5 | G2GC | G3G4 | G3G5 | G3GC | G4G5 | G4GC | G5GC ^{b)} |
|--------|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------------------|
| 両言語自然 | 13.17*** | | * | * | | | * | * | | | | | | | * | * | * | * | | | * | |
| 中国語自然 | 124.17*** | * | * | * | * | * | * | | | | | * | | | | * | | | * | | | * |
| 日本語自然 | 382.99*** | * | * | * | * | * | * | | | | | * | | | | * | | | * | | * | * |
| 両言語不自然 | 52.58*** | | * | | | | * | | | | | * | | * | * | * | | | * | | * | * |

a) df (4,780) b) GJ: 日本人群, G1: 日本語専攻群, G2: 1年学習者群, G3: 3年学習者群, G4: 6年学習者群, G5: 長期学習者群, GC: 中国人群 (*: p < .05)

説4が新たに支持されただけではなく、質問紙Iの日本語自然さ評定課題が日・両言語の授受文に関する共通項目と相違項目から構成されていることも検証された。

仮説5を検討するために、両言語自然、両言語不自然、日本語自然、中国語自然の4つのカテゴリーにおける7つのグループの評定平均値を比較した。7つのグループとは、調査Iの対象である日本人群、中国人の日本語学習者の5つのグループと調査IIの中国人群である。もし両言語自然と両言語不自然のところでは7つのグループの評定平均値の差が小さく、日本語自然と中国語自然のところでは日本語学習者の5つのグループが日本人群よりは中国人群の評定平均値に近いならば、仮説5は検証されると期待できる。それを検討するために、まず各カテゴリーにおける各グループの評定平均値と標準偏差をTABLE7に示した。

TABLE7から分かるように、7つのグループの評定平均値は、両言語自然と両言語不自然のところでは類似し、日本語自然と中国語自然のところでは異なっていることが明らかである。しかも日本語学習者の5つのグループの評定平均値が全体的に日本人群よりも中国人群のそれに近いことも分かる。これが仮説5を支持した結果である。ところでTABLE7からも分かるように、日本語自然と比べ、中国語自然のほうにおいて、日本語学習者の5つのグループの評定平均値が比較的日本人群のそれに近いのはなぜであろう。これは日本語受動文と日本語使役文の学習に関する馮(1993, 1994)の研究結果と

一致し、中国語自然と比べ、日本語自然の項目の学習がより困難であることを示唆しているものと思われる。すなわち第2言語の構文が自然であっても、それと対応する母語の構文が不自然であると、容易に受け入れられない傾向がこの研究においても確認された。

ところで、7つのグループの評定平均値間には、確かに両言語自然と両言語不自然においては差がなく、日本語自然と中国語自然においては差があるのであろうか。それを見るために、分散分析を用いて7つのグループの評定値の差検定を行い、そしてTukey法による多重比較を行った。その結果をTABLE8に示した。

TABLE8より明らかなように、4つのカテゴリーとも日本人群と中国人群に有意差が得られたのは、予想に反する結果である。では、なぜ両言語の共通項目にも有意差が得られたのであろう。それはおそらく対象者の人数が多かったことと、標準偏差がきわめて小さかったことによるものと考えられる。TABLE7から分かるように、両群の標準偏差は、両言語自然においてそれぞれ0.26と0.38であり、両言語不自然においてそれぞれ0.41と0.47と低かった。したがって、差が有意になりやすいのであろう。さらに両言語自然において、中国人群の評定平均値が予想よりやや不自然のほうに偏っているのも原因の1つとして考えられよう。それはおそらく日本語から訳した中国語は、どうしても訳文の感じが抜けないので、自然に使う中国語と比べればやや不自然な感じがするからであろう。しかし両言語自然と両言語不自然に

における日本人群と中国人群との評定平均値の差を見てみると、決して大きな差とは言えないことから、この2つのカテゴリーにおける両群の評定値は類似していると見てよからう。

TABLE 8を見ると、両言語自然において、日本人群は1年学習者群、3年学習者群、中国人群と、また1年学習者群は日本語専攻群、6年学習者群、長期学習者群、中国人群と、さらに6年学習者群は3年学習者群、中国人群と、それぞれ有意差があった。ここで注目すべきは、1年学習者群が日本人群と中国人群とも差を出したことである。これは1年学習者群が日本語の自然さを評定するとき、如何によりどころがなく、学習が未熟であることを物語っていると解釈できる。これと対照的に日本語専攻群、6年学習者群と長期学習者群は、それぞれ日本人群と有意差を出さなかった。これはこの部分の学習が学習年数と共に進むことを示唆した結果と思われる。この結果はさらに1年学習者群が日本語専攻群、6年学習者群、長期学習者群とそれぞれ差を出したことから裏付けられる。

両言語不自然においても、1年学習者群が6年学習者群、長期学習者群とそれぞれ差を出したほか、日本語学習者の5つのグループとも、中国人群と有意差を出した。これは予想に反する結果である。このような結果が得られたのは、おそらく中国人群の評定平均値が予想より低く、自然のほうに偏っていたからであろう。これは、上述したように訳文に原因がある以外に、中国人群の3分の1が中学生であることにも原因があると考えられる。日本人群は高校生、大学生と社会人から構成されているが、中国人群は中学生、大学生と社会人から構成されている。中学生の言語力と責任感は高校生と比べると劣る可能性があるため、中学生の評定値が中国人群全体の評定平均値に影響を及ぼしたことが考えられる。

これを見るために、両言語不自然における中国人群の中学生、大学生と社会人のそれぞれの評定平均値を計算した。その結果、中学生は2.89と低かったのに対し、大学生と社会人はそれぞれ3.21と3.18と高かった。ゆえに上の考えが裏付けられた。しかし7つのグループとも評定平均値が3を超えたため、このカテゴリーが両言語不自然の項目であることが言えると思われる。さらには日本語学習者のうち、1年学習者群を除いた他の4グループは、すべて日本人群と有意差を出さなかったことから、この部分の学習はそれほど困難でなく、学習年数が経つにつれて進むことが示唆された。

中国語自然においては、予想のとおり日本語学習者の5つのグループは、日本人群と有意差を出した。これは、この部分の学習はたいへん困難であり、学習年数が

経っても容易には進行しないことを示した。このことは日本語自然においても当てはまる。しかし、この2つのカテゴリーにおいて、日本語学習者の5つのグループが、ほぼ全員中国人群とも有意差を出したことは予想に反する。これについて、2つの可能性が考えられる。1つは日本語の学習が進むにつれて、中国語から日本語への移行があったこと、いま1つは外国語だからとにかく母語と違うだろうとの予測からあえて母語と違うように評定値をつけたことである。

中国語自然においては、前者の可能性が高いと思われる。なぜならばTABLE 7から明らかなように、6年学習者群を除いた他の日本語学習者のグループは、学習年数が多いほど、評定値が日本人群に近いからである。これは日本語自然と比べ中国語自然のほうが比較的学習されやすく、この学習が学習年数と共に徐々に進んでいく可能性を示唆していると思われる。しかし日本語自然においては、後者の可能性が高いと考えている。というのは、学習年数の一番多い長期学習者群の評定値が日本人群のそれから一番離れており、彼らの第2言語への移行が一番少ないとは思えないからである。さらにTABLE 7より分かるように、日本語自然における日本語学習者の各グループの評定平均値が散らばっていることから、学習年数が経ってもこの学習が容易に進まないことが裏付けられた。ゆえに中国語自然と比べ、日本語自然のほうがより学習しにくいことが重ねて確認され、馮(1993, 1994)の日本語受動文と使役文に関する研究結果が中国人の日本語授受文の学習研究においても支持された。

全体の要約

この研究は、日本語受動文と使役文の学習に関する馮(1983, 1984)の研究結果が中国人の日本語授受文の学習にも同様に存在するか否かを検討するため、また中国人の日本語の構文文法の学習における母語の影響に関する一般的な見解を引き出すために行われた。そのため、2回の調査を実施し、5つの仮説について検討してきた。

仮説1の検討により、授受マーカー選択課題におけるエラー率は中国人の日本語学習者の各グループとも低かったのに対し、日本語自然さ評定課題におけるエラー率は各グループとも高かった。Tukey法による差検定を行った結果、前者においてはグループ間に有意差があったが、後者の両言語相違項目においてはグループ間の差は有意ではなかった。これは、前者の学習は学習年数が経つほど進むが、後者の相違項目の学習は学習年数が経ってもそれほど進まないことを示した。

仮説2の検討により、中国人の日本語学習者と日本人

群との評定平均値に、共通項目においては高い正相関、相違項目においては無相関があることが明らかとなった。これは、共通項目には母語（中国語）による促進的効果、相違項目には母語（中国語）による干渉的効果があることを裏付けた。さらに共通項目と相違項目を問わず、日本語学習者の5つのグループ間に高い正相関があったことから、第2言語の学習における母語の影響はたいへん根強いこと、学習の年数と共に容易に減少しないこと、また個人の学習歴、学習環境、教わった教師、職業などとほぼ関係なく、一貫して成人した学習者の日本語の構文文法学習に存在していることが分かった。

仮説3の検討により、日本語学習者の5つのグループとも、両言語の共通項目より相違項目においてエラーを多く出し、両言語の相違点がすなわち中国人の日本語学習の問題点であることが検証された。さらに相違項目のうち、中国語自然と比べ、日本語自然のほうにエラー率が高かったことから、日本語受動文と使役文の学習に関する馮（1993, 1994）の研究結果が支持され、母語では不自然なものが日本語では自然なものとなっていたとしてもそれを容易に受け入れない傾向が重ねて確認された。この傾向から得られた示唆とは、成人の第2言語の学習材料の処理過程において、母語知識が決定的な役割を果たしていること、母語知識と矛盾する学習材料が現われたとき、それを拒否、または回避するという機制が働いていることである。

仮説4の検討により、中国人群と日本人群との評定平均値に、両言語の共通項目においては高い正相関、相違項目においては無相関があること、また両群の評定平均値の差得点は共通項目では低く、相違項目では高いことが分かった。これにより、質問紙Iの日本語自然さ評定課題は、両言語の共通項目と相違項目から構成されることが検証された。したがって、中国人の日本語学習者は、両言語の相違項目において、日本人群の評定平均値と無相関を出す仮説2、エラーを多く出す仮説3に対して、新たな根拠が加わった。

仮説5の検討により、両言語自然、両言語不自然においては7つのグループの評定平均値が類似し、日本語自然と中国語自然においては中国人の日本語学習者の5つのグループが、日本人群と比べ、中国人群の評定平均値により近似していることが分かった。これは仮説5を支持する結果である。しかし、Tukey法を用いてグループ間の差検定を行った結果、仮説5が完全に支持されたとは言いがたい。というのは、両言語自然と両言語不自然においては、中国人群と日本人群との評定平均値に差が出ており、また日本語自然と中国語自然においては、日本語学習者の5つのグループが日本人群と差を出した

だけでなく、中国人群とも差を出したからである。これは仮説5に反する結果である。

前者については2つの可能性が指摘された。1つは訳文に原因があること、いま1つは中国人群の3分の1は中学生であるところに原因があることである。後者に関しても、2つの可能性が指摘され、それは日本語学習が進むと共に母語から日本語への移行があること、いま1つはあえて母語と違うように評定値をつける傾向があることである。そして中国語自然に関しては前者の可能性が高く、日本語自然に関しては後者の可能性が高いことも指摘された。しかし、日本語自然においても、中国語自然においても、日本語の学習年数と関係なく、日本語学習者の5つのグループのすべてが日本人と有意差を出したことから、仮説5が支持された。

このようにして、受動文・使役文と授受文という日本語の3大文法の学習に関する研究から共通した母語の影響が見られたことを根拠に、母語の影響が成人の第2言語の構文文法の学習において、一般的に存在すると結論できるのではないかと思う。またこの3大文法の学習に関する研究により、中国人の日本語学習の問題点がほかでもなく、母語と日本語との相違点にあるということが明らかにされた。また自然環境での日本語学習者にも教室環境での日本語学習者にも、さらに初級レベルの日本語学習者にも日本語教師のような上級の学習者にも、ほぼ同程度と言える干渉エラーがあることも分かった。よって、母語の影響が日本語構文文法の学習過程において、大きな役割を果たしていることが示唆された。

しかし、如何にすれば、この研究から得られた示唆を日本語教育の現場に生かすことができるのであろうか？ また日本語の教育者として、如何なる配慮をすれば日本語教育の効果が挙げられるのかに関しては、この研究では検討されていない。これを是非今後の研究課題としたい。

引用文献

- 相原林司 1986 受給表現と視点 国語学論説資料 23, 99-106.
 林 八龍 1980 日本語・韓国語の受給表現の対照研究 日本語教育 40, 113-120.
 堀口純子 1983 授受表現にかかわる誤りの分析 日本語教育 52, 91-103.
 馮 富榮 1993 日本語受動文の学習過程における母語—中国語の影響について 教育心理学研究 41, 388-398.

- 馮 富榮 1994 日本語使役文の学習過程における母語(中国語)の影響について 教育心理学研究 42, 324-333.
- 稲葉みどり 1992 日本語条件文の意味領域と中間言語構造—英語話者の第2言語習得過程を中心に— 日本語教育 75, 87-99.
- 徐 明 1983 表示授受関係の動詞和補助動詞 日本語学習与研究 5, 86-88.
- 宮地 裕 1965 「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について 国語学 63, 21-33.
- 岡野喜美子 1972 受給表現の扱い方 講座 日本語教育 8, 81-103.
- 奥津敬一郎 1979 日本語の授受動詞構文 —英語・朝鮮語と比較して— 人文学報 132, 1-27.
- 奥津敬一郎 1984a 授受動詞文の構造 —日本語・中国語対照研究の試み— 金田一春彦博士古希記念論文集 2, 65-88. 言語学編 三省堂
- 奥津敬一郎 1984b 授受動詞文の意味と文法 日本語学習与研究 1, 8-15.
- 奥津敬一郎 1986 やりもらい動詞 国文学解釈と観賞 51, 96-102.
- 曾 仁寿 1986 授受動詞用法図解 日本語学習与研究 6, 80-85.
- 上野田鶴子 1978 授受動詞と敬語 日本語教育 35, 40-48.

謝 辞

本論を書く際、名古屋大学教育学部教育心理学科の梶田正巳教授に終始懇切な御指導をいただきました。また調査にあたって、天津市外国語学院の陳正大教授、名古屋大学言語センターの村上京子助教授、河合塾の寺峰克彦先生から、多大な御支援をいただき、さらに天津市外国語学院・南開大学・天津61中学校・愛知文教女子短期大学・愛知高校の学生さん達、並びに多くの中国人の留学生、多くの中国人と日本人との社会人から被験者として暖かい御協力をいただきました。

なお、本論は、平成5年度富士ゼロックス小林節太郎記念基金の研究助成金を受けました。

ここで併せて、以上の方々・団体に心よりの感謝を申し上げます。

(1995年9月13日 受稿)

原 著

ABSTRACT

Influence of the Mother Tongue "Chinese Language" on the Learning Processes of Japanese Giving and Receiving Verbs

Furong FENG

This study was to investigate the influences of mother tongue on a second language acquisition. In survey I, five Chinese groups who had been learning Japanese for different periods and one Japanese group were asked: (i) to choose the appropriate giving and receiving markers, and (ii) to rate the naturalness of the Japanese giving and receiving sentences. In survey II, a sixth Chinese group was asked to rate the naturalness of Chinese sentences which were translated from the Japanese sentences in Survey I. The main results were: (i) the error rate in giving and receiving markers decreased as the learning years increased while rating of naturalness remained relatively constant; (ii) In the sentences rating case, when the results of the sixth Chinese group was close to the Japanese group, all seven groups were positively correlated. On the Contrary, the rating value of the first five Chinese groups were not only positively correlated with the sixth Chinese group and nothing related to the Japanese group, but there more errors were observed. This study suggested that mother tongue has both promoting and interfering influences.

Key words: sencond language acquisition, influences of mother tongue, promoting influences, interfering influences.